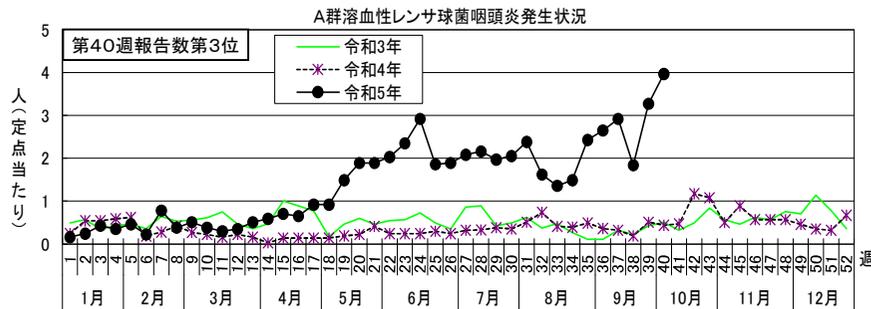
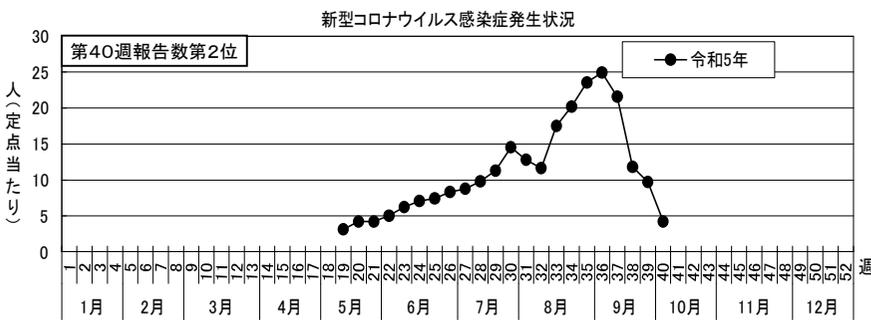
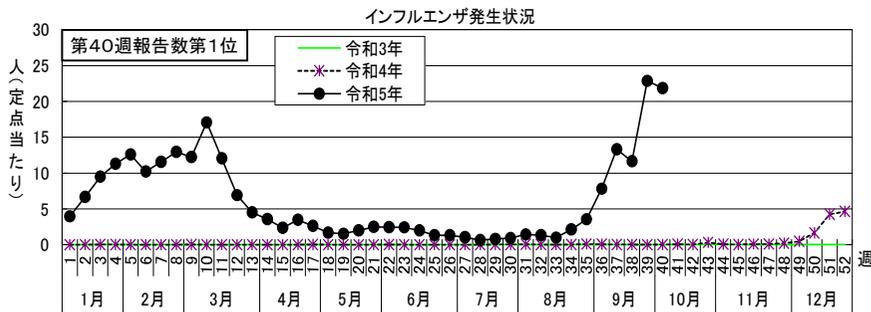


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年10月2日（月）～令和5年10月8日（日）〔令和5年第40週〕の感染症発生状況

第40週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) インフルエンザ 2) 新型コロナウイルス感染症 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は21.85人と前週(22.85人)から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は4.20人と前週(9.72人)から減少しました。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.97人と前週(3.27人)から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数が増えています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、例年冬季及び春から初夏にかけて報告数が増加する感染症です。川崎市では、新型コロナウイルス感染症の流行開始以降、報告数が大幅に減少していましたが、今年は4月頃から増加傾向にあり、令和5年第40週(10月2日～8日)の定点当たり報告数は3.97人となりました。なお、宮前区では警報基準値(定点当たり8.00人)を超えています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、通常予後は良好ですが、急性糸球体腎炎等の合併症を引き起こすこともあります。抗菌薬による治療が有効ですので、急な高熱とともに莓舌*や発しんなどがみられる場合は、早めに医療機関を受診し、処方された抗菌薬は最後まで飲み切りましょう。

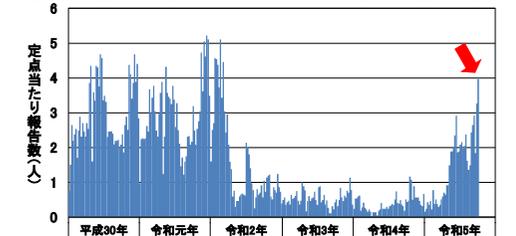
*イチゴのように赤くポツポツした状態

川崎市におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎分布マップ(令和5年第40週)



川崎市感染症情報発信システム(KIDSS)

川崎市におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の発生状況(平成30年第1週～令和5年第40週)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは？

病原体：A群溶血性レンサ球菌

感染経路：接触感染、飛沫感染

潜伏期間：2～5日間

主な症状：突然の発熱、全身倦怠感、咽頭痛、莓舌
(イチゴのように赤くポツポツした状態)、体や手足に小さく紅い点状発疹

合併症：急性糸球体腎炎、リウマチ熱等

予防対策：患者との濃厚接触を避ける、手洗い等

